

安全教育



令和5年
2月25日発行
発行責任者
横田 竜一

一般財団法人 横浜市安全教育振興会
〒231-0014 横浜市中区常盤町3-25 サンビル7階 電話 045-662-7835 FAX 045-662-9831
メールアドレス: info@anshinkai.or.jp ホームページ: http://anshinkai.or.jp/

令和4年度の中で見えた光

理事長 横田 竜一



4年に一度のサッカーワールドカップに興奮した昨年末、そして、今年も学生ランナーたちの走る姿に勇気もらったお正月、令和5年が始まりました。新しい年のスタートは、3月の年度末に向かって、令和4年度の振り返りをする時期でもあります。

令和4年度は、with コロナの中で以下のような事業を展開してきました。

1. 見舞金等給付事業
2. 安全普及啓発活動（防災安全教室、救命救急法教室、ポスター展等）
3. 供花料等給付事業
4. 団体助成事業（単位PTA事業助成、区部会PTA事業助成、青少年育成団体事業助成）
5. 修学奨励金給付事業
6. 賠償責任補償制度

コロナの影響で、「中止」「延期」「縮小」など、予定していた事業が思うように実施できない年が続いてきましたが、本年度、改めて見えてきた安振会事業の意義や次年度への展望についてお知らせします。

見舞金等給付事業では、部活動による負傷見舞金給付の制度、昨年度より開始したこともあり、賛助会員校へ更なる周知が必要と考え、広報活動に努めてきました。中学校、高等学校、特別支援学校の校長会のご協力もあり、多くの学校にお知らせすることができ、昨年以上に負傷見舞金を給付することができました。

安全普及啓発活動では、昨年は、緊急事態宣言の延

長により、急遽、中止せざるを得なかった防災安全教室、救命救急法教室を本年度は予定通り実施することができました。参加された皆さんの熱心な姿、お寄せいただいたアンケートの記述からも防災や救命救急に対する保護者のニーズの高さを感じることができました。ポスター展についても「健康と安全」に関する児童・生徒の意識の高さを示す素晴らしい作品が453点集まりました。安全普及啓発活動の重要性を改めて認識しました。

団体助成事業では、単位PTA事業助成、区部会PTA事業助成について、昨年を上回る申請件数をいただき、各単位PTA及び区部会PTAの活動がコロナの状況に応じ、新たな活動を模索している様子が伺えました。安全教育振興会が、その新たな活動の一助となれたのであれば、大きな成果であると捉えています。青少年育成団体事業助成についても昨年を上回る申請があり、様々な団体への助成を通して青少年の健全育成に寄与することができたと思います。

修学奨励金給付事業では、昨年同様、小学校156名、中学校133名、高等学校20名、特別支援学校24名 計333名に修学奨励金を給付することができました。

令和5年度も上記の6つの事業を継続し、with コロナの中で新たな活動に取り組もうとしているPTA、学校現場を応援して参ります。そして、幼児・児童・生徒の健全育成、安心・安全を守り抜くための安振会事業をより一層充実できるよう努めます。

令和5年度もご理解とご協力をお願い申し上げます。

横浜市立本牧南小学校

心身の健康づくりに主体的に取り組む 子どもの育成を目指して

～歯みがき習慣をもとにした健康の推進～

1 はじめに

本校は、心身の健やかな子どもを育成することを主眼とし、「元気いっぱい、やさしさいっぱい、何でもチャレンジ南っ子」を学校教育目標に掲げ、教育活動を行っています。また、校内では「互いのよさを生かし、思いや考えを生き生きと表現する子」をテーマに、主体的で対話的な深い学びとなる学習活動を目指して、研究を行っています。

VUCA時代と呼ばれる、予測不能な不確実、複雑で曖昧な時代になりました。新型コロナウイルス感染症が流行する中でも、変わらない地道な活動を続け、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、子どもたちの健康を守る歯みがきの取組について報告します。

2 歯科保健の位置づけ

目指す子どもの姿を「元気いっぱい やさしさいっぱい 何でもチャレンジ南っ子」とし、「知」：自ら問題解決する実践力のある子どもを育てる、「体」：知識技能を習得し、健康な体をつくる子どもを育てる、という学校教育目標を設定し、保健活動を推進しています。

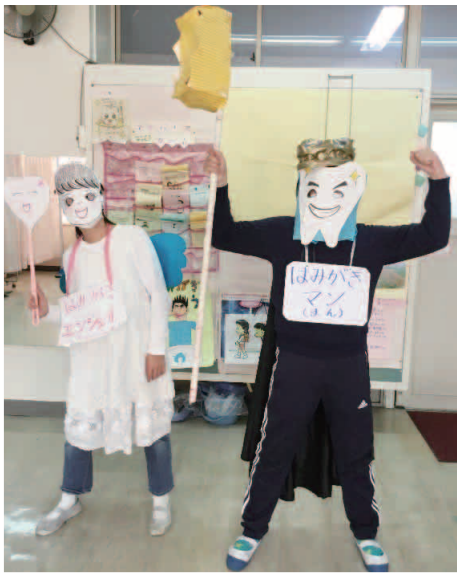
一人ひとりの児童が、マイ鏡を持ち、オリジナルの曲に合わせてブラッシングを行う「歯みがきタイム」を給食の後に5分間設定し、日課表に位置付けられています。1年生から実施をしている本校の児童は、音楽が流れると、自然と無言で、歯ブラシのブラッシングが始まり、歯みがきに

集中します。1年生入学時には、約1ヶ月間、6年生が給食の補助に入り、新入生の歯みがきの支援を行っています。6年生の後姿を見て、1年生も集中して歯みがきに取り組みます。また、「歯みがきタイム」をクラスに任せきりにせず、養護教諭や児童保健委員が適宜クラスを訪問し、意識の向上を図っています。磨き方が未熟な児童や、歯並びによって磨きづらい状況にある児童に対しては、持続的にほぼ1週間をめぐり、毎日歯みがきの練習を養護教諭が行っています。

新型コロナウイルス感染症が流行する中でのマスクを外した「歯みがきタイム」を実施していくことができるのか、教職員間でも議論を重ねました。無言での「歯みがきタイム」の実現とソーシャルディスタンスをしっかりと保った流し場の工夫により、コロナ禍でも「歯みがきタイム」を地道に継続することができました。まさに「案ずるより産むが易し」の状況で、教職員が本気になると、自然とその熱量は、子どもたちにも伝わっていきました。

歯の衛生週間を設けたり、長期休業中には「歯みがきカード」を配り、毎日の歯みがきを励行したりし、一年間を通して、学校だけでなく家庭との連携、協働により、歯の健康を守っています。また、各クラスでも、学級活動での歯の健康についての学習を行います。そして、歯科医師及び歯科衛生士による「歯科検診と歯科相談」を年2回実施しています。





神奈川県最もよい歯の学校

表彰 (県1位)

本牧南小学校は、過去6年間連続で神奈川県「よい歯の学校」の表彰を受けて参りましたが、令和3年度は「最もよい歯の学校」として選出されました。これは県下で1校のみ選ばれる大変名誉ある賞となります。

11月15日(月)に、横浜市教育委員会より首席指導主事ら2名が来校され、賞状と盾をいただきました。

そして、令和4年度は 神奈川県「よい歯の学校」、全国では全日本学校歯科保健優良校として選出されました。




「南っ子の歯を守りたい」という強い思いから始まった歯科衛生の取り組みが、子どもたちの不断の努力と、保護者のご理解とご協力、歯科校医・秋吉正敏先生と教職員の指導の継続により、このような形で評価をいただけたことは大変喜ばしいことです。これからは本牧南小学校では、子どもたちの健康、安全を守る取り組みを進めて参ります。




3 学校保健委員会での取組

学校保健委員会は、年2回開催をし、児童の発表はもちろんのこと、継続的に養護教諭と栄養士がコラボした授業を行い、様々な手立てを講じて、歯の健康を推進しています。

クラス毎の年間目標を決め、年間を通して個人やクラスで取り組むことの意義を理解し、実践的な態度の継続を図っています。集会では、クラス目標を発表し、その進捗状況を確認し合い、お互いで認め合い、励まし合いながら進めています。

歯科巡回指導当日に、学校保健委員会を行う工夫をし、歯科校医からも助言を頂き、前期と後期の歯の健康について進捗状況を確認する中で、子どもたちが安心して活動に取り組んでいます。

4 児童保健委員会での取組

児童保健委員会が、手洗いや歯みがきを低学年に教えたり、歯の健康について全校集会で発表したりし、積極的

に全校児童への啓発を行います。児童保健委員の高学年は、全校集会では、「歯みがきマン」と「歯みがきエンジェル」に扮装し、全校児童の人気キャラクターとなっています。高学年の真剣な取り組みの姿を見て、下級生が自分たちもお兄さん、お姉さんのようになりたい、という好循環の輪ができていっています。児童保健委員会の子どもたちは、年4回、手づくりの「歯みがきカード」を作成し、全校に歯みがきの励行を行っています。

5 今後に向けて

コロナ禍を経験し、健康の大切さ、そして自他の健康を守る、ということについて、これほど直面して考えさせられたことはなかったように思います。大人になっていく子どもたちは、この経験をプラスに捉え、よりよい安心で安全な生活を送っていくことのできる世の中の担い手として、たくましく成長してほしい、と強く願っています。

学校教育目標の具現化をさらに図り、健康教育の充実を目指して、今後とも教職員が丸丸となって、地道で真摯な努力を続けてきたいと考えています。

〈調査研究委託事業〉

横浜市PTA連絡協議会

自ら行動する子どもたちを育むためにPTAとしてできること～継続の積み重ね～

講演：長島 由佳 氏(人権擁護委員・料理研究家)

2022年12月14日、横浜市教育会館大ホールにおいて、理事・役員を対象とした研修会を開催しました。人権擁護委員や横浜市食育フォーラム委員など幅広い分野で活躍されている料理研究家の長島由佳氏をお迎えしての講演会です。長島氏は横浜市教育委員や横浜市PTA連絡協議会会長としての経歴もあられ、私たちPTA会員としての立場や考えをよく理解されている先輩でもあり、丁寧で的確な内容と、会場参加者をランダムに指名してのマイクパフォーマンスは、参加者が聞くことに徹する研修会ではなく、聞く・話す・感じる・考えることができる大変貴重な時間となりました。

まずはPTA活動に対してエールをいただきました。(以降、お言葉の引用は市P連による編集)

『子どもの成長と共にPTAの役割は地域や環境によって全く違いますが、保護者の願いや子どもへの想いはどの地域であっても一緒ですよね。子どもたちの教育環境や生活環境の向上のために活動されているのではないのでしょうか。ただし目的や想いが同じであってもみんなが同じ取り組み活動を行なうわけではなく、活動が違う場合もあります。単位PTAによって活動のやり方は違うし、隣の学校であってもやり方は違う。常に子どもが中心にあって、家庭があり、地域があり、学校があり、関係団体がある。私たち大人がしっかりと理解することが大切であり、多くの人が集まるPTA活動であるために多種多様な考えがあることを理解したうえで、横のつながりを大切にしながら、そして尊重しながら活動することが、より良い活動につながります』

会社勤めなど営利団体として仕事をしていると、業務の効率化を求められるようになると思います。それが当たり前であり、それが正解であるとして考える方も多いと思います。しかしその効率化はすべての保護者にとって、〈最善の効率化〉になるとは言えない場合もあると考えています。通信技術の向上やデジタル機器の向上によって、業務効率が容易に行える環境を手に入れている私たちではありますが、その技術やツールが適さない場合もありますし、様々な要因によって想定外のトラブルを起こす場合もあります。すべての保護者がリスクを負わずに安全に情報共有できる手法を考えますと、手間がかかる作業であり非効率であったとしても、その作業はコミュニケーション向上の作業時間として、情報共有の時間として、そしてこれからの計画について考える時間として捉えるなど、大人の成長につながる時間の一つと捉え活動していくことも業務手法の選択肢に残してほしいと考えます。

今回の講演のポイントとなった〈継続の積み重ね〉については次のようなお話もありました。

『〈継続の積み重ね〉を続けると仲間が集まる。仲間が増えると活動の1つについても、できる人が、できる時に、で

きる事をやればいいことであり、決して押し付けあうのではなくて、出来る!の気持ちを寄せ集めることが大切。お互い保護者であることを理解したうえで、一緒に協力しあって子どもを育てようと思うのは、子どもを育てる者の想いとして大切なこと』

このように保護者の心が救われるようなお言葉をいただきました。継続する大切さと継続することが、新たな活動や取り組みを起こすことの基礎になることを再認識しました。仕事と家庭だけで一日が終わる日常ではありますが、そのような環境の中でも人と人とのつながりを見つけて、つながりを育む大切さを考え直すことにもなりました。

最後に長島氏から私たち横浜市PTA会員へ保護者として忘れてはならない大切な言葉としてエールが送られました。

『私たち大人にできることは、すべての行動にムダなことは絶対にないことを子どもたちに伝えてほしいということです。そしてPTA活動そのものは大人の学びの場であり、お互いを知り学びあってほしいと思います。笑顔と愛情のエッセンスを忘れないでほしい。子どもたちは保護者や大人たちの表情をしっかりと見ています。一番わかっているのは子どもたちです。笑顔と愛情のエッセンスを忘れないで、継続の積み重ねを続けていただきたいと思います。』

PTA活動によく聞かれる話にメリット・デメリットを求めることが聞かれます。しかしそこで議論するのは、メリット・デメリットではなく保護者共通の想いとなれる〈活動意義〉であってほしいと考える時間となりました。

東日本大震災で被災した学校を訪問されたときに経験された大切な言葉として、『無くなった学校は新たに建てられる。壊れた学校は修理したら通学することができる。でもコミュニティがなくなったら学校は存在しない。コミュニティがあるからこそ、そこには学校が建ち、私たち保護者がPTAという組織で活動をして、地域の方が活動できる。自分たちの組織であったり、地域であったりと、環境を知ることと分かることが出てくる。コミュニティがなくなったらそこでは何も活動できないし、子どもたちも生きていけない。』コミュニケーションの重要性を理解する言葉でした。

また、学習や学びという言葉についても改めて考え直す機会となりました。横浜市PTA連絡協議会のスローガンは、〈大人も育とう、子どもと共に へつながる想い 新しい時代へ〉を掲げて活動を行っていますが、PTA活動は社会貢献活動であり生涯学習の場であると一般的に言われているようですが、子どもがいるから、私たち大人は〈大人〉として育っていくことができる。子どもがいるから生涯学習として学びを続けることができるし、その学びは社会貢献活動にもつながることであり、より良いPTA組織を育てていく立場にあることも理解することができました。

〈団体助成事業〉

自分らしい生き方を探すためのキャリア教育事業 一般社団法人かけはし

こどもキャリア大学

～気(木)にナル 身(実)にナル プロフェッショナル～

■プロフェッショナルとの出会い

2022年9月から始まった第二期こどもキャリア大学。泉区民文化センター「テアトルフォンテ」を会場に行っている



特別講座です。毎月様々な職業のプロフェッショナルを講師に迎え、小学4年生から中学3年生の子どもたちが参加し、学んでいます。

日程	タイトル	講師	SDGs
9/25 sun.	幼稚園・保育園のおはなし ～乳幼児の教育、 保育って必要なの？～	幼稚園教諭・保育士 専修・正統科・専攻士 福岡県ロータリークラブ 市川 慎二 さん	4 質の高い教育をみんなに
10/16 sun.	航空整備士のお話 ～空の安全を守る 責任とやりがい～	航空整備士 JAL エンジニアリング 吉田 達夫 さん	9 産業と労働者の安全と健康を確保する
11/27 sun.	転職のススメ ～民間から公務員へ～	公務員 区役所 こども専任支援課 堤 大造 さん	3 持続可能な開発目標
12/11 sun.	前期 振り返り		
1/29 sun.	おくすりの道のり ～治験ってなあに？～	CRO 株式会社 勤務 プロジェクトリーダー 廣瀬 瑛美子 さん	3 持続可能な開発目標
2/26 sun.	素直に考えること	日本ベンチャー正会員 日本起業クラブ正会員 坂本 貴光 さん	4 質の高い教育をみんなに
3/26 sun.	好きなものを探す旅	株式会社 Aww CEO 取締役 プロデューサー 守屋 貴行 さん	4 質の高い教育をみんなに
PM ~	後期 振り返り		

■その人の“生き方”を見つめる

こどもキャリア大学は、2時間のプログラムの中で、講師の「人生・生き方」を学ぶことができます。子どもたちは毎回、その方の人生年表を受け取ります。その方が生まれたときから今日までの間、どんな出来事があり、どんなことを考え、どんなことを学んできたのか。成功や喜びだけではなく、挫折や苦悩も含めて、講師の方々には、子どもたちに語りかけます。

その人のその人らしい生き様を、真剣なまなざしで見つめながら聴き入ったり、ノートにメモしたりして、学んでいる子どもたちの姿があります。

■子どもたちの質問力

特に、子どもたちが主体的に学ぶ姿が表れるのが、講師に質問をする場面です。

「転職でもう一度、映画の仕事を受けてみる気はなかったのですか？」



その質問は、講師が大学生の時に映画会社に手紙を出してまで映画の仕事をしたかった気持ちを、その後どのように受け止めていたのかを探るものでした。その質問に講師の方も誠実に答えてくださいました。その子は、「講師の方が仕事をやりながら、思いに変化が生まれたこと」や「“やりがい”や“理想とする仕事”についての新たな考えが生まれたこと」を理解しました。そして講座を終えて考えたことを、次のように書きました。

「自分の理想を求めて転職していて、決断力があり、勇気のある方だと思った。やりがいのある仕事とは、人が喜ぶ、人のためになる仕事ということ。それを求めているのがすばらしいと思った。」

子どもたちが、質問を通して人の生き方を学ぶ姿に、スタッフも毎回感動させられます。

■本物を見る・肌で感じる体験的な学び

10月の航空整備士の方の講座は、羽田空港の整備場で開催されました。実際に格納庫の中に入っていった子どもたちの目はきらきらと輝き、思わず「うわー！広い！」と歓声が上がりました。本物の飛行機に向かい、エンジンの前に立って大きさを体感したり、風圧を想像したり、翼の下を歩いてその厚みや造りをじっくりと見つめたり。そのスケールの大きさはもちろん、整備士の方が語る仕事の大変さとやりがいに、大きな感動をもって学んでいました。



他の講座でも、保育士の仕事を体験するワークショップや、区役所の仕事や転職を実感的に学ぶワークショップなどを行いました。

こどもキャリア大学では、これからも、魅力的なプロフェッショナルと子どもたちとの出会いを創造することで、子どもたちが仕事の本質を発見し、自分の生き方を考える「自分づくり」を応援していきます。

〈団体助成事業〉

一般社団法人ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ

楽しいボッチャ体験学習を通して共生社会を考える

・・・ボッチャの魅力は3S。① Safty、② Simple、③ Smile・・・

体験会の流れ

参加する子どもたちの人数に応じたボッチャボールセットとハーフコートを持参します。授業が始まる時にはコート
の設置、ボールや投球補助具のランプ等の準備をして子どもたちが入ってくるのを待ちます。「こんにちは!」みんなの
元気な挨拶とともに会場はやる気満々。子どもたちは、ボッチャについての事前学習もしっかりして授業に臨んでいます。

はじめは、コートの上に座り、ボッチャの簡単なルール説明。体が不自由でボールを投げることが難しい人が使うランプの紹介。最終的に自分の力でボールを押し出す様子に真剣なまなざしです。



誰もが一緒に楽しめる工夫

次に病気や事故で視力を失った人と一緒にボッチャをするときはどうしたらいいか考えます。目標ボールの上に音の出る発信機を置いて、目をつぶって音がする場所に向かって指をさします。これはほとんどの子どもたちはできます。そして、「MC(実況中継)を付けてくれると『ほい!』『ウオー!』というのを一緒に感じる事ができる」と全盲の方からの話をします。



世界にも目を向ける

ボッチャが強い国はタイ。戦争時に使われた地雷により手足を失った人が多く、社会参加を促すためにボッチャが行われ、ボッチャ人口が多く選手層も厚く、経験豊かで強い選手が出てくるのです。同世代の子どもたちが、現在も地雷のある環境で生活しています。安全で幸せな日本に

住んでいる私たちは、何ができるのか考えられる大人になってほしいです。

自分たちでゲームをしよう

話が終わると、各コートに分かれてゲームを体験します。一球一球歓声とガッツポーズ、いいプレーには拍手が自然と出ます。レフリーも自分たちで行います。あっという間に時間が経過していき、最後に全員集合して質問タイム。「なぜ赤と青なの?」「ボッチャを普及させる会社をなぜつくった?」「ボッチャ人口は?」「ボッチャの魅力は?」「うまくなるには?」「目が見えず耳も聞こえない人と一緒にするときは?」などたくさん出てきます。



ボッチャへの関心は高まってきている

いろいろな人たちと一緒に楽しめるボッチャ、一緒に楽しむために相手を思いやったり、やり方を工夫したり、ボールをどこに置いたら次の人が投げやすいか、レフリーはどのような声かけをしたらいいか等を考えながら楽しいボッチャ体験学習を行っています。

共生社会の構築に求められる力であるコミュニケーション力、相手を思いやる気持ちやバリアフリー感覚を高めることができるツールとしてボッチャが広がり、みんなの笑顔が増えていくことを期待しています。

ボッチャの魅力3S。① Safty、② Simple、③ Smile



〈団体助成事業〉

横浜開港祭協議会

第41回横浜開港祭での 応急救護ブースについて

〔協力企業名〕 日本赤十字社神奈川県支部

〔内 容〕 AEDの使用体験

〔体験人数〕 約100名

〔子 供〕 約50名

第41回横浜開港祭において、日本赤十字社神奈川県支部様より応急救護ブースの出展をいただきました。日頃身近に設置してあるものの使用する機会が少ないAED(自動体外式除細動器)の使用体験ができるという内容です。AEDは動作が自動化されており施術者が非医療従事者でも使用できるとありますが、誰においても普段の生活でAEDを使用する機会は多くは無く、使用方法を把握されていない方が多数を占めると考えられます。しかし、いざという時には迅速に正確な処置が求められます。

そこで、本年度の横浜開港祭のご来場者様を対象に100名の方にAEDの使用を体験いただきました。もし周囲の方でAEDの使用が必要な状況となった場合は、まず何を行えば良いのか、何を確認すれば良いのか、何に注意すればよいのか。様々な事柄に気を配らなければなりません。何も知識が無ければ対処することができません。今回、日本赤十字社神奈川県支部の方の参加者へ対するレクチャーを拝見し、緊急時の対処法を体験いただくことで、後々にAEDが必要となる緊急時には躊躇すること無く先頭を切りリーダーシップを発揮し人命救助につながる対処ができるようになって感じました。当日はお子様を連れてご家族でご参加されていた方が多く、実際にAEDを使用するにあたり模擬的に周囲の確認や119番の要請、AEDや応援の要請をするなど大きな声を出して体験に参加していただき、実際にAEDを使用した際にもしっかりと使用方法を熟知しようと真剣に取り組んでいただきました。

体験をした子供達は人命救助に繋がる活動を肌で感じ、横浜開港祭での体験を通じてひと回り大きく成長したものと思います。この体験を家庭や学校に持ち帰ることで、家族や友達に伝播しAEDに対する距離感が近くなり知識を蓄えることに繋がることかと思えます。AEDに触れ知識が増すことで、普段気にせず過ごしていた場所であってもAEDが設置してあることに気付き、いざというときの初動に違いが表れると確信しております。横浜開港祭は、市民の皆様により良いことを伝える役割も担っておりますので、第41回横浜開港祭で子供たちに人命救助についての学びや体験ができる機会を設けることができ大変嬉しく思っております。

協力企業である日本赤十字社は、「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、日頃より各種講習を行っています。本年度の横浜開港祭においても、来場者の方々に貴重な体験をしていただけたことについて、これも安全教育振興会様の助成事業のお力添えがあったお陰であると心より感謝申し上げます。

人はいつながあるかは誰にもわかりません。その時に人命救助に関する正確な知識を得ておくことで、助けることができる命が必ずあります。横浜開港祭では来年以降も多くの市民の方々に人命救助の知識を得られる機会をご提供できるようにしていきたいと考えております。



第36回 「健康と安全」ポスター展

展示期間:令和4年12月6日(火) ~ 令和5年1月31日(火)

展示会場:安振会ホームページ上

表彰式会場:関内新井ホール

応募点数:453点

受賞作品:特別賞14点 入選14点 佳作14点

審査委員:横浜市教育委員会 小中学校企画課指導主事 長谷川 聡 先生

横浜市小学校図画工作教育研究会会長 寺澤 みゆき 先生(横浜市立桂小学校長)

横浜市立中学校教育研究会美術科部会会長 本江 伊智郎 先生(横浜市立港南台第一中学校副校長)

受賞作品



横浜市
市長賞



てをあげてわたろう
間門小学校5年 大野 ジュリ



横浜市
市長賞



身近な自然を大切に
十日市場中学校1年 鞆野沢 莉奈



横浜市
議
長
賞



みんなのしぜん
六浦南小学校2年 竹山 幸司朗



横浜市
議
長
賞



ブルーなキモチ、ブルーライトから?
笹下中学校2年 大谷 藍子



横浜市教育委員会
教育
長
賞



地球を守れるのはあなただよ
能見台小学校4年 酒井 結夢



横浜市教育委員会
教育
長
賞



健康的な食生活にしよう
笹下中学校2年 佐賀 優里



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事 長 賞



ウィズコロナミッション予防生活
間門小学校6年 村松 芽衣



一般財団法人 横浜市安全教育振興会
理事 長 賞



地球(アース)が溶けちゃう!
笹下中学校3年 渡邊 萌々香



横浜市PTA連絡協議会
会長 賞



海にごみをすてたら あなたがごみを食べることに!
山元小学校4年 塩田 想



横浜市PTA連絡協議会
会長 賞



適度な距離を保とう
笹下中学校2年 木村 奏南子



神奈川新聞社賞



川は自然の宝物
三保小学校4年 鵜野沢 莉央



神奈川新聞社賞



命とスマホ どちらが大切?
笹下中学校3年 堀田 洵



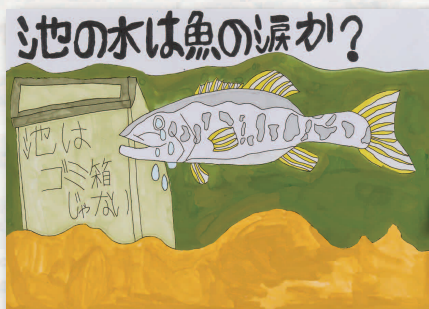
審査員特別賞



このけしき おじいちゃんになっても見たいなあ
境木小学校2年 久保田 凌輔



審査員特別賞



池の水は魚の涙か?
若葉台特別支援学校 横浜わかば学園2年 高田 大翔

令和4年度 加入状況

校種	賛助会員数	世帯数
小学校	336	138,907
中学校	133	65,704
高等学校	5	4,203
特別支援学校	12	1,411
総計	486	210,225

(小学校には、横浜国大附属横浜小が含まれる)

令和4年度 評議員名簿

役職名	氏名	備考
評議員	大槻 繁美	学識経験者((公財)よこはまユース業務執行理事・事務局次長)
評議員	吉備 カヨ	学識経験者(横浜市スポーツ協会副会長)
評議員	小泉 力也	学識経験者(神奈川県立高等学校安振会評議員)
評議員	高橋 秀吉	横浜市立中学校長会(総務・横浜市立本牧中学校長)
評議員	片山 久也	横浜市教育委員会代表(総務課長)
評議員	松本 豊	学識経験者(横浜市子ども会連絡協議会会長)
評議員	宮崎 亮	横浜市PTA連絡協議会(会計)
評議員	島田 潤	横浜市PTA連絡協議会(書記)

令和4年度理事・監事・審査委員名簿

役職名	氏名	備考	
理事長	横田 竜一	学識経験者	○
副理事長	豊田 則夫	学識経験者	○
副理事長	竹本 靖代	学識経験者	○
専務理事	小宮 寛之	(一財)横浜市安全教育振興会 事務局長	○
常務理事	斎藤 博栄	学識経験者	○
理事	鈴木 秀高	学識経験者	
理事	生田 麻実	学識経験者	
理事	海上 良太	学識経験者	
理事	樋口眞砂子	学識経験者	
理事	鈴木 進	学識経験者	
理事	菅野 陽子	学識経験者	
理事	重田 英明	横浜市立小学校長会(副会長)	○
理事	室伏 健治	横浜市立中学校長会(副会長)	○
理事	福島 豊	横浜市立特別支援学校長会(会計)	
理事	竹原浩太郎	横浜市PTA連絡協議会(会長)	○
理事	青柳 寛子	横浜市PTA連絡協議会(副会長)	○
理事	白石 洋子	横浜市PTA連絡協議会(書記)	
監事	水島 貴志	横浜市立小学校長会(副会長)	
監事	筒井 京子	横浜市PTA連絡協議会(書記)	

○印は審査委員兼務

審査委員	紺野 勉	横浜市医師会推薦
審査委員	戸塚 武和	横浜市医師会推薦
審査委員	神保 裕紀	横浜市歯科医師会推薦

令和4年度 上期 供花料等給付一覧表

(令和4年4月1日～令和4年9月21日)(単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)児童生徒供花料	児童	2	60,000
	生徒	3	90,000
	小学校	24	720,000
(2)保護者供花料	中学校	25	750,000
	高校・特別支援	4	120,000
(3)教職員供花料		0	0
(4)証明書代等		25	55,760
合計		83	1,795,760

費目	件数	金額
(1)振込手数料	81	32,175
(2)その他手数料	0	0
合計	81	32,175
支払総額		1,827,935

令和4年度 上期 共済 見舞金等給付一覧表

(令和4年4月1日～令和4年9月21日)(単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額	
1 児童生徒事故見舞金	(1)傷害事故	児童	851	10,437,200
		生徒	64	997,600
	(2)障害	児童	2	58,200
		生徒	0	0
	(3)交通事故	児童	19	57,932
		生徒	3	9,000
小計		939	11,559,932	
2 児童生徒死亡慰金	(1)学校管理下外事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
	(2)交通事故	児童	0	0
		生徒	0	0
	(3)登下校中の交通事故死	児童	0	0
		生徒	0	0
小計		0	0	
3 PTA主催共済事故見舞金	(1)傷害事故	5	119,100	
	(2)障害	0	0	
	(3)交通事故	0	0	
	(4)事故死	0	0	
	(5)往復途次の交通事故死	0	0	
	(6)病死等	0	0	
小計	5	119,100		
4 学校特別見舞金	(1)特別負傷見舞金	0	0	
	(2)特別交通事故見舞金	0	0	
	(3)死亡弔慰金	0	0	
	小計	0	0	
合計		944	11,679,032	

費目	件数	金額
(1)振込手数料	775	236,555
(2)その他手数料	1	110
合計	776	236,665
支払総額		11,915,697

令和4年度 上期 学校管理下(部活動中) 見舞金等給付一覧表

(令和4年4月1日～令和4年9月7日)(単位 円)

給付別種・事由	対象	給付件数	給付額
(1)傷害事故	中学校	77	1,022,353
	高等学校	21	324,017
	特別支援学校	0	0
小計	生徒	98	1,346,370

費目	件数	金額
(1)振込手数料	72	20,130
(2)その他手数料	0	0
合計	72	20,130
支払総額		1,366,500

安全教育推進団体に対する事業助成

令和5年1月末現在

申請のあった単位PTAに対する助成 1校4万円(上限) 259校	10,295,942
区・部会PTA講演会研修会等助成	2,019,000
横浜市PTA連絡協議会事業助成	1,450,000
横浜市立小学校長会「専門研究事業」	300,000
横浜市立中学校長会指導部・研修部	300,000
横浜市立特別支援学校長会「専門研究事業」	300,000
横浜の子どもが作る弁当コンクール・はまみらいラボ子ども会議	300,000
GLOBAL SUNDAY MARKET2022 ～はまっ子スクール～	300,000
横浜市立小学校 第3回オリ・パラスポーツフェスティバル	300,000
第41回横浜開港祭 応急救護体験ブース	300,000
第7回未来へつなぐ つづき ゆめ駅伝	300,000
プラスエンターテイメントGlee2022粋「吹奏楽と金管バンドの饗宴」	300,000
第71回関東聾学校陸上競技大会	200,000
第18回学校給食展示会	200,000
ピンクシャッター 2023in神奈川	150,000
第10回yokohama地域学校協働活動フォーラム	130,000
ポッチャ体験学習支援事業	100,000
第39回横浜港カッターレース	100,000
第63回関東甲信越地区公立学校教頭会研究大会神奈川大会	100,000
子どもキャリア大学	100,000
2022年度全国フレンドシップ活動in横浜国立大学	100,000
食育推進事業親子料理教室	80,000

令和4年度 区部会事業助成一覧

区名	開催日	事業名	会場
神奈川	11/19	親子で楽しく！アイススケート体験	横浜銀行アイスアリーナ
港南	10/5	講演「観たい！聴きたい！笑いたい！！～笑いで免疫力アップ大作戦～」 講師 桂 歌助	港南公会堂
保土ケ谷	11/24	講演「子どもの未来が変わる？！『性のトリセツ』 ～思春期相談の現場から伝えたいこと～」講師 千田 陽子	星川小学校 視聴覚室
旭	通年	コロナウイルス感染予防対策(手指消毒の配布)	各校
磯子	通年	コロナウイルス感染予防対策(手指消毒・非接触型体温計の配布)	各校
緑	通年	リモート会長会 WEB会議推進事業	各校
戸塚	12/5	大テーマ「自分を信じる力を育てる」 講演「あるがままを生きる」講師 土屋 義生 講演「自分を信じる力を育てるコーチング「大丈夫？」から「大丈夫！」へ」 講師 みつはし あきこ	戸塚区総合庁舎多目的スペース (ZOOM配信)
栄	11/18～3/16	幹事会・指導者研修会・子ども110番の家事業 講演「動物占いは“占い”ではなかった！～本質がわかれば接し方が見えてくる～」 講師 桑野 照平	栄区役所・地球市民かながわ プラザ等
泉	11/12	講演「未来を担う子どもたちと、ともに歩む大人たちへ」 講師 成田 真由美	泉公会堂
高校	11/25	講演「大学の今～今の大学生活・大学生は保護者世代とこんなに違う～」 講師 小山 巖也	関東学院大学 横浜・関内キャンパス
特別支援 学校	9/30 1/16	第1回研修会(進路分科会)「18才成人後のライフプランを考える」 // (広報分科会)「特別支援学校の広報紙〈防災編〉を作ろう！」 講演「いじめ問題を通して「個人の尊厳」を考える」講師 真下 麻里子	浦舟特別支援学校・ 健康福祉センター大会議室 健康福祉センター大ホール

令和4年度 修学奨励金の給付

(1月末日現在)

小学校	156人	30,000	4,680,000
中学校	133人	40,000	5,320,000
高等学校	20人	60,000	1,200,000
特別支援学校	24人	40,000	960,000
計	333人		12,160,000

令和4年度 賠償事故状況概要

(12月末日現在)

総数	校内	校外	対人	対物			
				自動車	ガラス	メガネ	その他
36	5	31	4	18	2	5	7
ガラス破損の内訳				自動車損傷の原因			
校内		校外					
小学校	中学校	小学校	中学校	自転車	ボール	石	その他
0件	0件	2件	0件	12件	1件	1件	4件
自転車事故の内訳							
対車		対人		その他			
14件		3件		2件			

※高等学校及び特別支援学校はなし

安全教育団体に対する助成

各団体における活動の一コマ

単P事業助成

横浜市立万騎が原小学校

事業名▶稲作活動

毎年、南本宿小学校と一緒に、大池公園の中にある教育水田で稲作活動を行っています。地域の指導員の皆様、田植えや稲刈りなど昔ながらの方法を丁寧に子どもたちに教えてくださり、全校でかかわっています。PTAの方も活動に参加していただき、今年は230キロの収穫がありました。一人1合を家に持ち帰り、自分たちで作ったお米を赤飯にしたり、米粉にしたりして食し、改めて食の大切さを感じました。



単P事業助成

横浜市立日野南中学校

事業名▶制服リサイクル～有効活用をめざして～

本校PTAでは、制服を有効活用できるよう無償提供での譲渡会を年1回開催しています。

今年度は、より多くの方々に足を運んで頂くために7月の面談期間に行いました。その中で、安振会助成金で購入したハンガーラックに制服を掛け、職員室前広場に展示しました。

制服の買い替えは家庭への負担が大きいため、必要としている方へ届けられるよう今後も制服を譲渡していきたいです。



区・部会講演会・研修会助成(区部研修会事例)

泉区PTA連絡協議会

事業名▶指導者研修会 全体会

第1部に泉が丘中吹奏楽部によるアトラクション、第2部に講演の2部構成にて実施しました。

講演では、パラリンピック競泳金メダリストの成田真由美さんをお招きし、病気と事故の体験、水泳との出会い、アスリートとしてのお考え、ライバルとの別れなど様々なお話を伺いました。「素晴らしいすべての出会いに感謝をし、後悔をしないように今を精一杯生きることを大切にしたい」というメッセージをいただきました。

